





1. 建物概要

| | | | | | | |
|------|--------------------------|-----|-----|--------|----|----|
| 建物名称 | 磐田市下野部 杉崎運輸株式会社様 倉庫 新築工事 | BEE | 0.7 | BEEランク | B- | ★★ |
|------|--------------------------|-----|-----|--------|----|----|

2. 重点項目への取組み度

| 重点項目 | 得点 [*] /満点 | 取組み度 | 評価 |
|--|---------------------|-------------------|-----------|
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.5 /5 | | ふつつ |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.6 /5 | | がんばろう |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.5 /5 | | がんばろう |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 1.8 /5 | | がんばろう |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | 評価 凡例 よい 4 点以上 | ふつつ 3 点以上 |
| | | がんばろう 3 点未満 | |

3. 重点項目についての環境配慮概要

| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | 内訳対応項目 | | |
|--|--|---|---|-----|
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | | 得点 | 3.5 | |
|  <ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁・天井・床下に断熱材を設置する。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥緑地面積は1,467.12㎡である。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦モデル建物法(工場モデル)にて、BEIm=0.23である。 ⑨LED照明を採用している。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪省水型便器を採用している。 ⑬グラスウールとスタイロフォーム (ODP=0、GWP=3)を採用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭ライフサイクルCO2排出率は65%である。 | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮ | ② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑪ 生物環境の保全と創出 ⑫ 敷地内温熱環境の向上 ⑬ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑭ 自然エネルギー利用 ⑮ 設備システムの高効率化 ⑯ モニタリング ⑰ 運用管理体制 ⑱ 節水 ⑲ 雨水利用システム導入の有無 ⑳ 雑排水等利用システム導入の有無 ㉑ 材料使用量の削減 ㉒ 既存建築躯体等の継続使用 ㉓ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉔ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 ㉖ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉗ 有害物質を含まない材料の使用 ㉘ 消火剤 ㉙ 断熱材 ㉚ 冷媒 ㉛ 地球温暖化への配慮 ㉜ 温熱環境悪化の改善 | | |
| | "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | | 得点 | 2.6 |
| |  <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯地域係数Z=1.2、用途係数I=1.0にて構造計算している。 | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ | ⑰ 耐震性 ⑱ 免震・制振性能 ⑲ 空調・換気設備 ⑳ 給排水・衛生設備 ㉑ 電気設備 ㉒ 機械・配管支持方法 ㉓ 通信・情報設備 | |
| | | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | | 得点 |
|  <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲ラーメン構造を採用し、壁長さ比率=0.094である。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑緑地を敷地境界沿いに配置した。 | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑ | ㉑ ユニバーサルデザイン計画 ㉒ 階高のゆとり ㉓ 空間の形状・自由さ ㉔ 地域性への配慮・快適性の向上 | | |
| | "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | | 得点 | 1.8 |
|  <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉑景観条例に準じている。 ■敷地外環境対策 (㉒持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特になし | Q-3 1 ⑳ 2 ㉑ 3 3.2 ㉒ LR-2 2 2.5 ㉒ LR-3 2 2.2 ㉓ | ㉑ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善 | | |

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | 磐田市下野部 杉崎運輸株式会社様 | 階数 | 地上1F |
| 建設地 | 静岡県磐田市 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 地域指定なし | 平均居住人員 | 6人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 2,000時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2022年3月 予定 | 評価の実施日 | 2021年11月1日 |
| 敷地面積 | 9,382 m ² | 作成者 | 株式会社飯田組一級建築士事務所 |
| 建築面積 | 3,630 m ² | 確認日 | 2021年11月1日 |
| 延床面積 | 3,729 m ² | 確認者 | 株式会社飯田組一級建築士事務所 |



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

| | |
|------------------|------|
| ① 参照値 | 100% |
| ② 建築物の取組み | 65% |
| ③ 上記+②以外のオンサイト手法 | 65% |
| ④ 上記+オフサイト手法 | 65% |

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 2.1 |
| 温熱環境 | 2.3 |
| 光・視環境 | 3.3 |
| 空気環境 | 2.6 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 2.5 |
| 耐用性 | 2.8 |
| 対応性 | 3.6 |

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 1.0 |
| まちなみ | 2.0 |
| 地域性・ | 1.5 |

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

| | |
|----------|-----|
| 建物外皮の熱負荷 | 1.0 |
| 自然エネルギー | 3.0 |
| 設備システム | 5.0 |
| 効率的 | 2.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

| | |
|------------|-----|
| 水資源 | 3.4 |
| 非再生材料の使用削減 | 2.8 |
| 汚染物質回避 | 3.3 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

| | |
|-----------|-----|
| 地球温暖化への配慮 | 4.3 |
| 地域環境への配慮 | 2.1 |
| 周辺環境への配慮 | 2.7 |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|--|
| 総合 *これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 | | その他 |
| Q1 室内環境 ・ルームエアコンを採用し、各室毎調整可能である。 ・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。 ・館内は禁煙である。 | Q2 サービス性能 ・倉庫の階高は6.5mである。 ・省水型便器を採用している。 | Q3 室外環境(敷地内) ・景観条例に準じている。 |
| LR1 エネルギー ・モデル建物法(工場モデル)にて、BEIm=0.23である。 | LR2 資源・マテリアル ・省水型便器を採用している。 ・グラスウールとスタイロフォーム(ODP=0、GWP=3)を採用している。 | LR3 敷地外環境 ・駐車場の数・導入路・配置等、配慮している。 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい